

## 防衛省仕様書改正票

D S P

K 5403D(3)

## ドライクリーニング ソルベント

制定 昭和47年 4月13日

改正 令和 2年 3月18日

(DRY CLEANING SOLVENT)

この改正票は、D S P K 5403D (ドライクリーニング ソルベント) についての  
ものであり、D S P K 5403D (2) を含め累積記載されている。この改正票は  
D S P K 5403D と併用される。

1.2表1 中 注記2 を次のように改める。

注記2 2種は、M I L - P R F - 6 8 0 DEGREASING SOLVENT に規定するTYPE II に準拠したものである。

1.4 a) 1) 規格 中

“J I S K 2249 原油及び石油製品－密度試験方法及び密度・質量・容量換算表” を

“J I S K 2249-1 原油及び石油製品－密度の求め方－第1部:振動法

J I S K 2249-2 原油及び石油製品－密度の求め方－第2部:浮ひょう法

J I S K 2249-3 原油及び石油製品－密度の求め方－第3部:ピクノメータ法

J I S K 2249-4 原油及び石油製品－密度の求め方－第4部:密度・質量・容量換算表” に、

“J I S K 2254 石油製品－蒸留試験方法” を

“J I S K 2254 石油製品－蒸留性状の求め方” に、

改める。

1.4 a) 2) 仕様書 に次を追記する。

“M I L - P R F - 6 8 0 DEGREASING SOLVENT”

1.4 a) 3) 法令等 中

“工業標準化法(昭和24年法律第185号)” を

“産業標準化法(昭和24年法律第185号)” に改める。

1.4 b) を削除する。

付表1 を次のように改める。

付表1－品質

項目	規定		試験方法
	1種	2種	
外観	透明な液体で、不溶解の水、沈殿物及び浮遊物を含まないものとする。		a)

2.

5403D(3)

付表 1 - 品質 (続き)

項目		規定		試験方法	
		1種	2種		
蒸留性 状	初留点	℃	150以上	177以上	J I S K 2 2 5 4 による。
	50 % 留出温度	℃	180以下	——	
	終点	℃	210以下	212以下	
	残油量	%	——	1以下	
色			——	25以上	J I S K 2 5 8 0 のセーボルト色試験方法による。
臭気		正常であるものとする。		b)	
引火点	℃	38以上	61~92	J I S K 2 2 6 5 - 1 による。	
銅板腐食 <sup>c)</sup>		1以下		J I S K 2 5 1 3 による。	
反応		中性		J I S K 2 2 5 2 による。	
ドクター試験		——	陰性	J I S K 2 2 7 6 による。	
密度 (15 ℃)	g/cm <sup>3</sup>	報告	0. 754~0. 820		J I S K 2 2 4 9 - 1 , J I S K 2 2 4 9 - 2 , J I S K 2 2 4 9 - 3 又は J I S K 2 2 4 9 - 4 による。
<p>注 a) 透過光で観察し、透明であるかどうか並びに不溶解の水、沈殿物及び浮遊物の有無を調べる。</p> <p>b) J I S P 3 8 0 1 に規定する1種~4種のろ紙に少量の試料を滴下し、室温で蒸発させた後、ろ紙のにおいを調べる。においに異常がない場合、“正常である。”とする。</p> <p>c) 試験温度は、1種50 ℃、2種100 ℃とし、試験時間はいずれも3時間とする。</p>					

附属書 A を削除する。

原案作成部課等名を次のように改める。

原案作成部課等名: 航空自衛隊 補給本部需品部

## ドライクリーニング ソルベント

(DRY CLEANING SOLVENT)

## 1 総則

## 1.1 適用範囲

この仕様書は、ドライクリーニング用及び航空機部品等の洗浄用に用いるドライクリーニングソルベントについて規定する。

## 1.2 種類

種類は、表1による。

表1-種類

種類	物品番号	用途
1種	6850-009-6204-5	ドライクリーニング用
2種	6850-403-1955-5	航空機部品等の洗浄用

注記1 1種は、JIS K 2201に規定する工業ガソリン5号(クリーニングソルベント)である。

注記2 2種は、米軍仕様書 MIL-PRF-680 DEGREASING SOLVENTに準拠したものである。

## 1.3 製品の呼び方

製品の呼び方は、仕様書の名称及び種類による。

例 ドライクリーニングソルベント 1種

## 1.4 引用文書等

この仕様書に引用する次の文書は、この仕様書に規定する範囲内において、この仕様書の一部をなすものであり、入札書又は見積書の提出時における最新版とする。

## a) 引用文書

## 1) 規格

- JIS K 2201 工業ガソリン
- JIS K 2249 原油及び石油製品-密度試験方法及び密度・質量・容量換算表
- JIS K 2251 原油及び石油製品-試料採取方法
- JIS K 2252 石油製品-反応試験方法
- JIS K 2254 石油製品-蒸留試験方法
- JIS K 2265-1 引火点の求め方-第1部:タグ密閉法
- JIS K 2276 石油製品-航空燃料油試験方法
- JIS K 2513 石油製品-銅板腐食試験方法
- JIS K 2580 石油製品-色試験方法
- JIS P 3801 ろ紙(化学分析用)
- NDS Z 0001 包装の総則

## 2) 仕様書

- DSP Z 1002 鋼製ドラム, 200L

## 3) 法令等

- 工業標準化法(昭和24年法律第185号)

2

K 5403D

b) 関連文書

M I L - P R F - 6 8 0 DEGREASING SOLVENT

## 2 製品に関する要求

### 2.1 認定

この仕様書で調達される製品のうち、1種については、工業標準化法第19条第1項の規定に基づく表示<sup>1)</sup>の許可を受けたものでなければならない。

注<sup>1)</sup> J I S K 2 2 0 1の5号に該当するものであることの表示

### 2.2 品質

品質は、ドライクリーニング用及び航空機部品等の洗浄用として適当な精製鉱油であって、透明で不溶解の水、沈殿物及び浮遊物を含まず、付表1による試験方法で試験したとき、付表1の規定に適合しなければならない。

## 3 品質保証

### 3.1 検査

検査の項目及び試験方法は、付表1によるものとし、それぞれ品質の規定に適合しなければならない。

### 3.2 試料採取方法

検査のための試料採取方法は、J I S K 2 2 5 1による。

## 4 出荷条件

### 4.1 容器

容器は、D S P Z 1 0 0 2に規定するドラムとする。防衛省のドラムに入れて納入する場合は、所要の修理及び完全な洗浄を行い、その外面塗装は D S P Z 1 0 0 2に規定する塗料、塗色とする。

### 4.2 表示

表示は、N D S Z 0 0 0 1による。ただし、陸上・海上・航空各自衛隊の標識は、“防衛省”と替えて表示する。

### 4.3 納入単位

納入単位は、15℃における容量(L)とする。

付表1－品質

項 目	規 定		試 験 方 法	
	1 種	2 種		
外観	透明な液体で、不溶解の水、沈殿物及び浮遊物を含まないこと。		a)	
蒸留性 状	初留点 °C	150 以上		J I S K 2 2 5 4 による。
	50%留出温度 °C	180 以下	177 以下	
	終点 °C	210 以下		
	残油量 %	—	1.5 以下	
色	—	21 以上	J I S K 2 5 8 0 のセーボルト色試験方法による。	
臭気	正常であること。		b)	
引火点 °C	38 以上		J I S K 2 2 6 5 - 1 による。	
銅板腐食 <sup>c)</sup>	1以下		J I S K 2 5 1 3 による。	
反応	中性		J I S K 2 2 5 2 による。	
ドクター試験	—	陰性	J I S K 2 2 7 6 による。	
硫酸吸収量 %	—	5 以下	附属書 A による。	
密度 (15°C) g/cm <sup>3</sup>	報告		J I S K 2 2 4 9 による。	
<p>注 a) 透過光で観察し、透明であるかどうか及び不溶解の水、沈殿物、浮遊物の有無を調べる。</p> <p>b) J I S P 3 8 0 1 に規定する1～4種のろ紙に少量の試料を滴下し、室温で蒸発させた後、ろ紙のにおいを調べる。においに異状がないとき、“正常である。”とする。</p> <p>c) 試験温度は、1種50°C、2種100°Cとし、試験時間はいずれも3時間とする。</p>				



# 附属書 A

## (規定)

### 硫酸吸収量試験方法

#### A.1 装置

##### a) 改良形バブコックびん

付図 A. 1 に示すとおり形状で、ガラス玉形の栓が付いたものとする。目盛は0から100までで最小目盛は2とし、10ごとに長い線で区切りをつける。目盛部分のしめる容積は $10 \pm 0.1$  mLとする。

##### b) 50 mLメスシリンダ

##### c) 10 mLピペット

#### A.2 試薬

試薬として用いる硫酸は、試薬級濃硫酸(比重1.84)をうすめ、滴定によって測定したとき、 $(93 \pm 0.3)\%$ (質量)の濃度になるよう調整する。

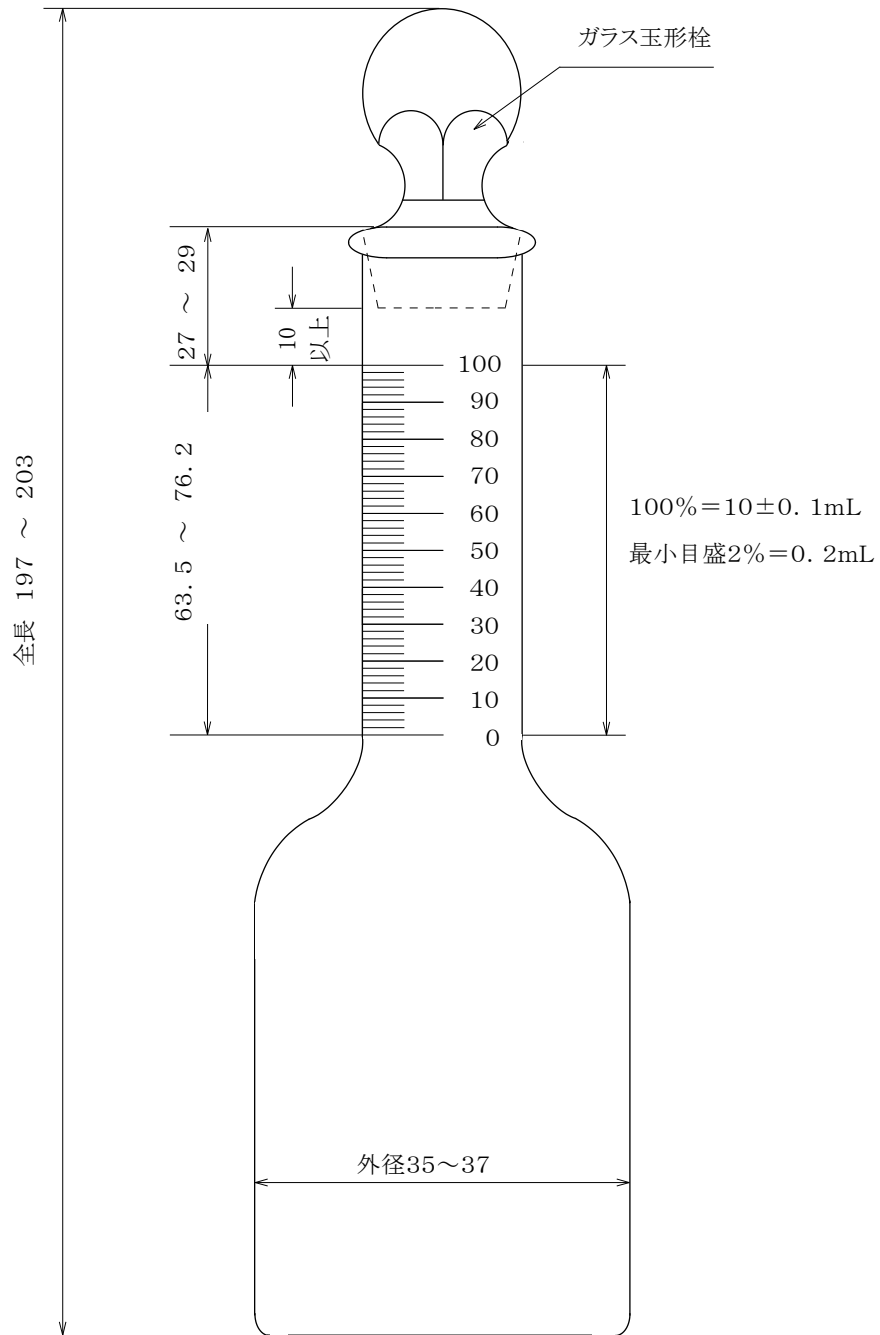
#### A.3 操作

20 $\pm$ 1 $^{\circ}$ Cに保った試料10mLをピペットで取り、清浄なバブコックびんに移して5分間氷水浴中で冷却する。あらかじめ氷水浴中で冷却した硫酸20mLを、飛散しないようガラス棒を用いて、びんの内壁につたわせ注ぎ入れる。びんはひきつづき10分間氷水浴中に浸して冷却する。この間、びん中の試料表面は水面より低く保つ。10分後、びんを氷水中から取り出し、あらかじめ硫酸でしめさせたガラス栓をはめて、60 $\pm$ 5秒間はげしく振った後、硫酸を静かに追加して試料表面が目盛の上端近くまで来るようにする。それを遠心分離器にかけるか、又は12時間以上静置して液相を分離した後、20 $\pm$ 1 $^{\circ}$ Cに保った水浴中に浸し、20 $^{\circ}$ Cにした硫酸を追加して、液上面を目盛の最上端に合わせる。2相の境界面の目盛を読み、硫酸吸収量%とする。

6.

K 5403D

単位 mm



図番	付図 A. 1	名称	改良型パブコックびん	尺度	—
----	---------	----	------------	----	---

防 衛 省